

第70回KTSM実技セミナー in 新潟 報告書

開催日時：平成30年9月15日（土）9:00～15:00

開催会場：新潟労災病院（新潟県上越市）

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会[®]

じょうえつ食と健康を支援する会

後援：株式会社クリニコ 大塚製薬工場

開催目的

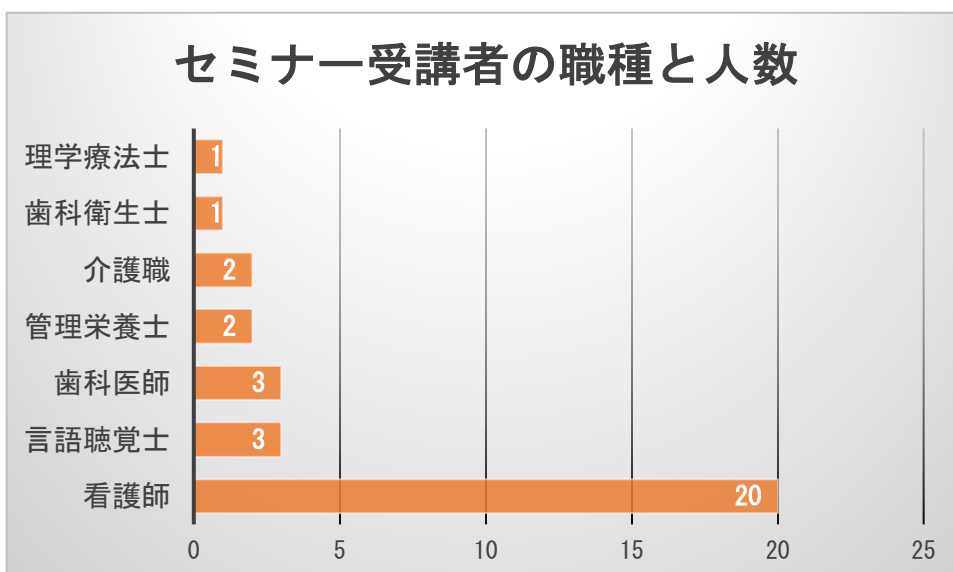
高齢化に伴い、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多くなり、医療・介護・福祉での食事ケアの充実、技術の向上が必要とされている。今回包括的な食事支援に不可欠な包括的な評価をKTバランスチャートを活用することで学び、理解し、展開する上で必要な安全安楽なポジショニング、早期経口摂取につなげる安全で効率的、自立を目指した食事介助の基本的事項について知識と技術を習得する。食べることに困難を有した人々への効果的な支援ができることを目的として開催する。

～KTSM実技認定者（講師・アドバイザー）～

氏名	所属	職種
小山珠美先生	NPO法人口から食べる幸せを守る会 [®] 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション 学会認定士 KTSM実技認定者
竹市美加先生	NPO法人口から食べる幸せを守る会 [®] 副理事長 訪問看護ステーション たべる	看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者

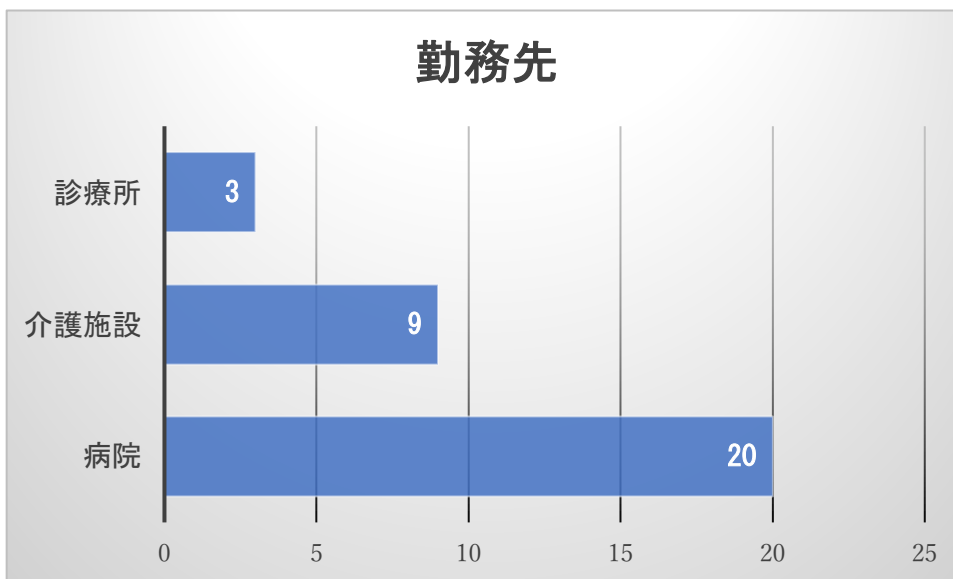
アンケート結果（セミナー受講者 32 名・アンケート回答者 28 名）

* 参加者の職種



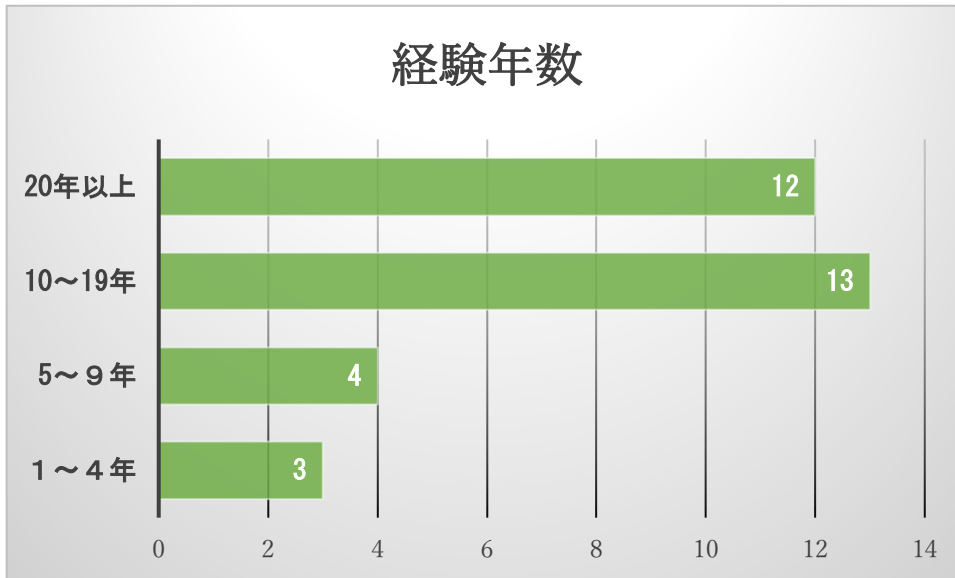
・数字単位：人

* 勤務先



・数字単位：人

* 経験年数



・ 数字単位：年

*参加前と参加後でどのように考え方が変わりましたか？

高齢者摂食嚥下機能回復を考える際、誤嚥性肺炎に繋がるのではないかとリスクのみ大きく捉えアプローチするには難しいと捉えていた。参加後は姿勢活動的視野の支援が大きく係わり、支援スキルを持つ事で、食べる支援が出来るのではないかと感じた。

食べることの大切さと私達の患者様への関わりでこれからの生活を変えることができることを再認識しました

誤嚥性肺炎＝禁食が当たり前と思っていたが、早期に経口摂取を開始することによって多くのメリットがあるということ。「食べる」という行為が人が生きていく上で大きな意味を持っているのだということに改めて気づかされた。その中で看護師が担う役割はとて大きいと感じた。

食べられなくなることは当たり前の現象である。食べられる工夫を考えることが大切であること。摂取時のポジショニングは基本。スプーンの運び方に注意する。

口の中に食べ物を入れることにのみ目を向けていたが、包括的に評価すること、そして評価項目それぞれが関連し合っていることが理解できた。むせるとか嚥下状態が悪いからと経口摂取を断念していたが、本当に食べられないのか考える必要性があると感じた。患者には強みになる部分があるのではな

<p>いか、介入によって伸ばせる部分があるのではないかと前向きに考えてみようと思えるようになった。</p>
<p>患者の問題点を部分的にしか見られていなかったことに気づいた。そして食べる意欲を患者だけに求めるのではなく、周囲の環境から変えていくことを考えるようになった。</p>
<p>今まで食支援に関して、栄養や嚥下機能など一部分だけに着目して評価していた。食べるや飲み込むという過程の一部分だけで評価するのではなく、包括的に評価した上で、多面的なケアプランを立ててアプローチしていく事が大切であることが分かった。また基本的な口腔ケア、肢位調整、食事介助が安全・安楽で効果的に実施できるようスキルを高めていきたいと思う。</p>
<p>食事支援スキル不足で、今までやるべきことを行えていなかったのも、今後はやるべきことをきちんと行い、患者様や利用者様の笑顔を増やしたいと考えています。</p>
<p>食支援についてより積極的に取り組んでいこうと思った。</p>
<p>体位角度を厳密に取り入れていきたい</p>
<p>患者視線を意識した。</p>
<p>これまでは、ポジショニングの重要性と KT チャートを学んできましたが、今回、事例の展開をしてみて、とても難しかったです、さらに学びを深めていなければと感じました。</p>
<p>食事を食べることを通して、患者さんやその家族に生きる喜びを感じてもらいたいという思いは変わりません。</p>
<p>嚥下後、間髪を入れずにスプーンフィーディングをする。食事のためのポジショニング（腕やひじの支え 背中を起こしながら足側を下げる テーブルの高さなど）</p>
<p>できてるつもりでも、まだまだ技術が未熟。普段気づかない所がたくさんあった</p>
<p>今回の研修で基本的なことは理解できたつもりです。まずは基本的なことから実践していきたいと思う。</p>
<p>食べる意欲」の項目が1番目に位置している意味を再認識しました。13項目を4グループの「視点」に分類することで、私の頭の中で、評価内容が整理されました。対象者の「強み」を発見することが、アプローチの進め方に重要であることがわかりました。</p>

<p>全くの一からの参加だったので、姿勢や介助の仕方、環境等で全く違った結果になるのだと実感し、そういった視点が全く足りていないことを痛感しました。</p>
<p>食事介助技術はもちろん、その方を包括的に評価する力もまだまだ弱いな、と自分の足りない部分を改めて実感しました。KT バランスチャートについては、事例をもとにまず何から考えていけば良いのか、併せて連動して良くなっていくところはどこなのか、着眼点を教えていただいたことでケアの道が開ける思いになりました。</p>
<p>『口から食べることは、心身の健康を保つ為に大切だ』</p>
<p>2回目の参加になります。何か出来ないかと模索している間に1年経ってしまいました。改めて参加して私にも出来る事があると少しだけ自信が付きました。米山の里から3人参加して良かったです。仲間が出来心強いです。 いきなり大きな事は無理ですが、まずは姿勢調整からです。頑張ります。 少しかもしれないけど進めて行きたいと思います。</p>
<p>きちんとアセスメントし、正しく関わって行くことで食べられるようになるひとがもっといると感じた。看護師として、その力不足のために食べる幸せを奪うことがないようにしなくてはいけないと感じた。</p>
<p>食支援には、まだまだやれることがある</p>
<p>食事介助、ポジショニングは前回セミナーにて学んだ事を自施設・現場に伝えたのですがスタッフの都合により実践できていない場面での忠告は甘かった、と思いました。人の人生に深くかかわることです。セミナーに参加した自分自身の責任をしっかりと持たなくてはいけないと思いました。</p>
<p>改めて、スプーンテクニックができていないことを実感した。口唇アシストの方法も理解できた。日々実践し、より多くの方が少しでも経口摂取を続けられるように活動したいと思った。KT チャートについては、患者全体像をとらえるのにわかりやすいツールと思いました。</p>
<p>食支援についてより積極的に取り組んでいこうと思った。</p>
<p>食事支援スキル不足で、今までやるべきことを行えていなかったもので、今後はやるべきことをきちんと行い、患者様や利用者様の笑顔を増やしたいと考えています。</p>
<p>食事、栄養に関して、患者を包括的に見ようと思った。</p>
<p>食事介助に対する意識が良い方に変わった</p>

KT バランスチャートの意味で曖昧な点が改善したこと。食支援にはやはり姿勢とスプーンテクニックが不可欠であること。この2点は新人研修で積極的に行うことと、安全管理研修でも姿勢についての看護師教育を継続して行っていくこと。KT バランスチャートを指導できる自分になりたい。

口から食べる、ということはやはりとても大切なことと実感しました。チャートを使用して支援することでみるみる状態が良くなっていく患者様の映像をみて、見違えるように元気になられていて、支援とはそうあるべきだと実感しました。チャートをきちんと活用することでどの部分をはじめに向上させていけば良いのかというきっかけが見つかります。何が良くないのか、正しい目で見極める力が大切だと感じました。

セミナーで学んだことを現場でどのように活かしていきますか？

包括的支援で食支援が成り立つ事から、常に包括的視野で患者さんを診て行く。

医師の発熱＝禁食の意識を変えることは難しいですので私たちができる正しい食事のポジショニングを伝達したいと思います。

まずは KT バランスチャートを活用し、1つでも2つでも改善できるところから取り組んでいきたい。

摂取時のポジショニングを徹底する。背抜きや尻抜き、足抜きの実施。特に患者さんの肩や腕の位置には気を配る。バスタオルを使用するなど少しの工夫で体位の保持が容易になるためチームに伝えていきたい。

症例があったら KTBC を記入して、対応策を検討して実践する。ポジショニングについてスタッフに体験してもらい、ピローやタオルの使い方を理解してもらおう。

まずは自分が実践して患者の反応を確認していきたい。実践が一番分かりやすいため、スタッフに1回でも実技を行ってもらい、体験することで患者の気持ちを理解していきたい。自身が1回目の研修で学んだにも関わらず、基本の介助動作が全くできなかったのも、まずは基本の介助方法から伝達したいと思った。また、グループワークを行うことで KT バランスチャートの使用方法について更に知識を深めることが出来たので、実際に使用してスタッフに伝達していく。

職場で学習会を行い、KT バランスチャートを用いて、アセスメント、アプ

ローチが出来るようにしていきたい。
周囲の方を巻き込んで、今回学んだことを講習等で伝えていきたいと思っています。
他の職員(特に他職種)に働きかけていきたい。
KT チャートを地域の多職種で導入する予定
そのような要望がないため、母の介助に活かします。
今回の学びを、まずは自分の部署から広めていきたいと思っています。
KT バランスチャートを使ってアセスメント行う習慣をつけ、個人レベルで使いこなしていきたい
まずは食事介助。KTBC を意識しながら摂食時評価に役立てたい
今回学んだポジショニングやスプーンテクニックを自分で実践するとともに病棟スタッフにひろめていこうと思う。
今までに修得した評価のやり方に加えて、KTBC にも早く慣れて活用したいと思っています。客観的な全体像を可視化できるので、ご家族やケアマネ、介護職員などへの説明にも有益と考えています。
ミールラウンド等で介助の仕方や姿勢、前後に動きながら食べるようなことになっていないかなどについてもチェックしていきたいです。
研修復命書だったり、日々のケアの中でも情報発信していきたいと思っています。研修会后、円背・拘縮がありむせがみられる入居様に対して施設の機能訓練指導員、歯科衛生士、介護職員とともに、学んできたこと伝えたり、検討したりして、安定した姿勢がとれて、入居者様も筋緊張がなく楽そうな姿勢で食事ができるようになった様子をみられた時は、うれしかったです。
KT バランスチャートに基づいてアセスメントを行ない、課題を抽出する習慣を付けたい
ベッドの上の姿勢のほかに、車椅子特にフルクライニング車椅子の姿勢調整を学習したいです。施設では、フルクライニング車椅子がほとんどなんです。
今はKT バランスチャートをしているだけでそれによるきちんとした関わりをしていない。何とか先生の本を活用して関わっていきたい。
伝達講習
実践においては、「なぜそうするのか」という根拠を説明し、正しい方法で対応できるようにしたいと思っています。KT バランスチャートは介護スタッフにアセ

<p>メントをしてもらっていますが、アセスメント前に今回学んだ事を説明し、より適切なアセスメントに繋がるように取り組みます。</p>
<p>ポジショニングやスプーンテクニックは、学習会で取り入れて、スタッフへ伝達して、より多くの方に理解してもらえるように働きかけていきたい。</p>
<p>他の職員(特に他職種)に働きかけていきたい。</p>
<p>周囲の方を巻き込んで、今回学んだことを講習等で伝えていきたいと思っています。</p>
<p>伝達講習をする。</p>
<p>他スタッフや、病棟で食事介助に対する意識、関心をより強く持ってもらうために、勉強会を開いたり、業務改善に取り組みたい</p>
<p>適切な食事介助、支援について、現場で実際に介護を行う職員さんへ伝達し、一人一人の技術向上に努めたいと思います。</p>

その他

<p>実際に食支援に携わっていませんが、実技にてまさに目から鱗の世界でした。時間がたりず慌ただしかったです勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>見たり聞いたりするのは大違いで実技は難しかった。試行錯誤しながら経験を積んでいくしかないのかなと思った。</p>
<p>地元地域だけではなく、新潟市や関東からの参加に刺激を受けた。初めて出会ったメンバーであったが積極的なディスカッションができて有意義だった。時間に制限があり、他のグループの事例の検討結果が聞けなかったことが残念だった。グループの意見や先生の考えをもっと聞きたいと感じた。</p>
<p>案内のパンフレットには「事例を通しての演習」と記載されていたのでグループはそのように話し合いを進めていたが、実際は食事介助スキルしか演習できずに目標が達成できなかった。2回の演習の内容の違いが分からず、同じ演習になってしまった。事例検討した内容に対してアドバイスがもらえたらKTBCの展開方法について理解できたのではないかと思う。他の事例についても検討した内容を知りたかった。演習のタイミングが悪く、アドバイザーに食事介助手技を見てもらえず残念であった。(頭では理解できているが、正しい方法できているのか不安) 麻痺側に傾いてしまう患者の車椅子でのポジショニングや円背患者のポジショニング、開眼アシストや開口アシ</p>

<p>ストについて知りたかった。</p>
<p>事例検討、グループワークでより具体的な援助の方法や工夫について学ぶことが出来ました。2回目の研修でも時間が足りないと感じるほど、内容の濃い研修でした。また様々な病院、施設、職種の人たちの意見を聞くことができて良かったです。</p>
<p>実技が多くとても有意義でした。ありがとうございました。</p>
<p>口から食べさせるという強い決意が必要だという事を感じました</p>
<p>もう少し長い時間をかけて欲しかった。</p>
<p>今回参加して学んだことを持ち帰ってみて、また悩む事も多いと思うので、新たな課題をもって、また参加したいと思います。</p>
<p>小山先生は、前日の講義のやわらかさと対照的に実習では時に（助手の先生も）厳しい指導をなさっていた。日頃、真剣に実践されている様子が垣間見られ、こちらも真剣に実習に取り組めた。実技実習は大変、参考になった。</p>
<p>事例提供の場で他者に伝える場合の情報や時系列の大切さ、食事介助は相手の立場で。グループメンバーと言ってもあまり話し合える時間がなく、何でこの点数をつけたのかなどのディスカッションもしたかった。2.3点など点数が悩む時に。</p>
<p>今回の研修で基本的なことは理解できたつもりです。まずは基本的なことから実践していきたいと思う。</p>
<p>2日間、ありがとうございました。小山先生の患者様に対する熱意、自分の信念を貫いていく姿が印象的でした。演習があつという間だったのでもっとポイントなどがあれば聴きたかったです。</p>
<p>講師の先生の技術は全く違っており、習得には練習あるのみだと思いますが、1回の参加ではとにかく「凄い！」が先行して、実践できる自信もなく終わってしまいました。それでもその「凄い！」「全然違う！」をもっと多くの看護師や介護士に体験してもらいたいと思いました。患者役を体験するのが一番実感できると思います。今回はたまたま医師からKTバランスチャートというものがある、と聞いたときにネット検索したところ1か月後に上越で研修会が開催されるという巡り合わせがありました。もっとたくさんの人の目に留まるといいなと思います。</p>
<p>もう少し深くじっくりと学びたいので、ぜひ他でも開催されるセミナーがありましたら参加したいです。</p>

来年もセミナーを開催していただき、職場の仲間を誘って参加したい。
まだまだ自分に足りない事が沢山あるのだと思いました。でも出来る事を確実にやって行きたいと思います。
大変有意義な時間を過ごさせていただきました。これからが始まりだなと感じました。
日程の余裕がない
貴重なセミナーです。可能な限り毎回参加したいと考えております。そして、もっと極めたいとも思っております。上越地域のみ勉強会を企画してほしいです。
さまざまな職種の方とGWと実技が行え、皆様、知識を得ていて、刺激になりました。
実技が多くとても有意義でした。ありがとうございました。
この度の研修で、ポジョニングやKTスプーンを使った介助が特に勉強になりました。実践でしっかり活かせるように頑張ります。
一般病床、回復期病床が急性期病院からの転院受け入れをしている。まずは、安全に食べれる状態なのかを観察できる看護師の育成したいため、転院時の観察項目に組み込みたいと考えている。ここが確立したら、長期療養、老人保健介護施設へひろめていきたいと考えている
中越地区では中越NSTや中越NST摂食嚥下障害部門があり研修会を設けている。「いかにその人らしさを大切に食支援を行うか」を目標にあげ多職種で活動している。利用者や患者の情報を多職種で共有するにはKTバランスチャートが適していると思うため、ここでひろめることができたらいいなと感じた。
参加させていただき、ありがとうございました。 職場でもKTバランスチャートの導入を考えております。 職場の現状を考えると、導入するのはなかなか容易ではないと思いますが、利用者様のため働きかけて行きたいと思います。

セミナーの様子



事例検討



実技演習



実技演習



小山先生、竹市先生

ありがとうございました！